|  |
| --- |
| 全国助産師教育協議会 |
| 2019年　内閣府指定激甚災害　機関会員校被災状況概要 |
| １．豪雨災害（台風３・５号）・・・・・・・・・・・・・P1　　　　　　　　　　　　　　　２．豪雨災害（台風10・13・15号）・・・・・・・・・P2　　　　　　　　　　　３．豪雨災害（台風19号）・・・・・・・・・・・・・・P3-4４．総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5 |

|  |
| --- |
| 社会貢献委員会**2020年1月22日** |

|  |
| --- |
| **１．2019.6.6-7.24　豪雨災害(台風3・5号)** |
| 災害時対応フローに基づき、今後の活動概要の確認 |
| 9.11 | 激甚災害指定（閣議決定） |
| 9.18 | 中部地区、中国・四国地区、九州・沖縄地区の3地区長にメールにて被災状況調査を開始（対象：3地区62会員校） |
| 10.23 | 全地区長からの返信を受ける |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 返信率　62校中8校（12.9％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【地区別返信状況】

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　中部地区20校中0校（0％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 中国・四国地区16校中0校（0％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　九州・沖縄地区26校中8校(30.7％）

※全地区長より上記以外の会員校より

被害の連絡はなかったと報告を受ける

**＜結果の概要＞**

62会員校のうち被災に関するトピックがあった会員校は3校、主な内容を以下に示す。

**1．助産学実習への影響**

1. 実習施設の移動には影響したが分娩やケアに影響はなかった。

**2．全国助産師教育協議会に望む支援**

1. 教育に支障が出るような災害に見舞われたことはないですが、例年台風が幾つも発生する地域であり、現在の異常気象を考えると災害に遭遇する危険性は高いと思います。全助協が支援できる内容を明文化されていると早急に支援をお願いすることができると思います。
2. 全助協で災害状況を調査してくださり大変有り難いです。今後の支援に活かすために結果を公表して貰えると有り難いです。

|  |
| --- |
| **２．2019.8.3-9.24　豪雨災害(台風10・13・15号)** |
| 災害時対応フローに基づき、今後の活動概要の確認 |
| 9.27 | 関東甲信越地区、九州・沖縄地区の2地区長にメールにて被災状況調査を開始（対象：2地区52会員校） |
| 10.11 | 激甚災害指定（閣議決定） |
| 11.27 | 全地区長からの返信を受ける |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　返信率　52校中8校（15.3％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【地区別返信状況】

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　関東甲信越地区26校中8校（30.7％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　九州・沖縄地区26校中0校（0％）

※全地区長より上記以外の会員校より

被害の連絡はなかったと報告を受ける

**＜結果の概要＞**

52会員校のうち被災に関するトピックがあった会員校は2校、主な内容を以下に示す。

1. **助産学実習への影響**
	1. 台風15号では公共機関の運休、断水、停電が起こり1週間実習を中止した。

**2．全国助産師教育協議会に望む支援**

1. 災害時に教育機関の状況を把握する「災害状況の把握ネットワークシステム」の構築等如何でしょうか。

|  |
| --- |
| **３．2019.10.11-10.14　豪雨災害(台風19号)** |
| 災害時対応フローに基づき、今後の活動概要の確認 |
| 10.15 | 北海道・東北地区、関東甲信越地区、東京地区、中部地区、近畿地区、中国・四国地区）の6地区長にメールにて被災状況調査を開始（対象：6地区134会員校） |
| 10.29 | 激甚災害指定（閣議決定） |
| 11.27 | 全地区長からの返信を受ける |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　返信率　134校中32校（23.8％）

【地区別返信状況】

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　北海道・東北地区20校中9校（45.0％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　関東甲信越地区26校中10校（38.4％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　東京地区17校中10校(58.8%)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　中部地区20校中0校（0％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　近畿地区35校中0校（0％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　中国・四国地区16校中3校（18.7％）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※全地区長より上記以外の会員校より

被害の連絡はなかったと報告を受ける

**＜結果の概要＞**

134会員校のうち被災に関するトピックがあった会員校は11校、主な内容を以下に示す。

**1.　助産学実習への影響**

1. 公共交通機関の計画運休が実施されたため、運転開始してから実習開始した。
2. **講義への影響**
3. 円滑に実施できている。

**3．全国助産師教育協議会に望む支援**

1. 被災学生への利子無し奨学金、返済無し図書券の支援等、学習環境を復活できる支援をして欲しい。
2. 被災学生に最大限の配慮を行い、単位認定や国家支援受験資格への支障を最小限にする支援をして欲しい。
3. 被災学生への教育基金等あればいいと思いますが財政的に無理でしょうか。
4. 実際に被害の影響がある状況では、このような返信を必要とするメール連絡は負担になると被災地の方に聞いたことがあります。全助協として必要な学校に支援をしていくことは素晴らしいことだと思いますので、HPに掲載・メールで全校に通知し、必要な人が連絡するという方が望ましいのではないかと感じました。是非ご検討頂けますと幸いです。

**4.　その他**

1）夜中に避難勧告レベル5が発表され、寮に宿泊中の学生から避難した方がよいか電話で相談を受けました。3階建ての寮の方が安全だと判断し寮に居るよう指示しました。分娩介助実習は中止しました。翌朝すぐに学校・寮に向かい被災状況の確認をすると、学校玄関は奥の方まで雨で濡れていました。倉庫は床に水が溜まっている状況でした。現在、台風による堤防決壊・川の氾濫に対する避難マニュアルを作成中です。今後は、このような状況の時は教員が寮に残る、台風の通過が予測される場合は事前に分娩介助実習の待機を中止する等決めておく、学校玄関・寮玄関前に土嚢を置くよう準備しておく等検討中ですが、皆様の情報やお知恵を共有できれば有り難いです。

1. 被災された方に何かできることがありましたら支援したいです。
2. 母子へのボランティア等要望がありましたら参加したいと考えています。
3. 全助協が状況把握をし、支援の検討をしてくださることが救いでもあります。今後も継続されることを期待しています。

5）迅速な対応で被災地の先生方は心強いと思います。

＜総括＞

　2019年、社会貢献委員会では、「災害時対応フローチャート」に基づき、内閣府が指定した激甚災害に対する機関会員校の被災状況について地区長を通じメールにより情報収集した。全体の返信率は、12.9％、15.3%、23.8％と低いが、地区別でみると0%～53.8％と格差が認められた。但し、被災地の機関会員校各校の回答は得られなかったものの地区長からは「被災報告なし」といった概況報告はなされている。また、2020年1月13日開催の地区長会においても各地区長より改めて口頭により「災害に関して被害状況はない」との報告を受け、各校、助産教育に関する長期的支援の必要性がないことを再確認した。

３回の情報収集を通じた回答内容から、下記事項について検討の必要性が示唆された。

1. 各校「災害等危機管理対策マニュアル」再考・再編の提案
2. 被災状況情報収集方法又はツールの検討
3. 本協議会としての具体的支援内容の検討

　　今後、これらの3項目を検討する中で、災害発生に関わらず、助産教育が継続可能となるよう**BCP**(Business Continuity Plan = 事業継続計画) を視野においた災害対策の検討に努めたい。